

2024年4月7日 No. 3714

先週の講壇から

“ すがりつかない ”

ヨハネによる福音書 第 20 章 11 節～18 節

聖句「わたしにすがりつくのはよしなさい。まだ父のもとへ上っていないのだから。」(20:17)

1. 《マグダレナ》 新約聖書には、大勢のマリアさんが出て来ますが、イエスの母マリアに次いで有名なのがマグダラのマリアです。主が彼女の前に、復活の御姿を初めて顕わされたからです。イエスさまに悪霊を祓って病を癒して貰って以来、ガリラヤからエルサレムまで一行に付き従って来た女性です。日曜の夜明けと共に、墓に向かったのも、イエスさまが亡くなられた今後は「その菩提を弔いながら、自らの余生を奉げよう」と決心していたからです。
2. 《死体を探す》 お仕えして来たイエスさまが殺されてしまった、それだけでも大きなダメージですが、墓参りに行ってみたら墓は荒らされて、遺体も消え去っていました。ショックの余り、完全な放心状態です。せめて御遺体にでもお仕えしようと願っていたのに、その願いも打ち壊されたのです。涙に霞む彼女の目には、墓の中に佇む「白い衣を着た二人の天使」まで見え始めます。「もうどうかしっちゃった」と思った時、背後から園丁が「婦人よ、なぜ泣いているのか？」と問いかけます。それに対して、思わず「遺体の在り処を御存知なら私が引き取ります！」と叫ぶマリア。追い詰められた女の意地、凄い気迫を感じます。けれども、彼女が必死に探し求めているのは「死体」です。「死体探し」をしているのです。
3. 《すがりつく》 園丁と思っていた人物が「マリア」と呼びかけると、彼女にも復活の主であることが分かりました。舞い上がる彼女に対して、イエスさまの台詞「すがりつくのはよしなさい」は余所余所しく聞こえます。すがりつく女を突き放す男、『金色夜叉』の貫一お宮「熱海の海岸」みたいです。確かに、どこまでも「しがみつく信仰」もあるのかも知れません。実際、マリアは「キリスト命」で生きて来たのです。しかし、その一念が彼女にもたらしたのは「死体探し」でした。信仰は更に大きく深く成長して行くことが出来るのです。だから、イエスさまは彼女に言いました。「私の兄弟たちの所に行って告げなさい」と。告げるべきは、勿論「復活の信仰」です。「主は復活された」と証しし続けることです。伝説によると、マリアはマルセイユに渡って主の復活を語り続けたそうです。

朝日研一朗牧師